

第10回防災VG総会開催 挨拶 防災VG徳岡代表

おはようございます。本総会にお集りいただき、本当に有難うございます。今年もよろしくお願ひ致します。

昨年は大阪北部地震、北海道胆振東部地震、西日本の未曾有の豪雨など自然災害が多数発生し、多くの被災者が出た。益々防災・減災のVG活動の必要性・重要性を感じている。

新年早々防災VGにとって嬉しいニュースがあった。1/5の金沢区消防出初式で藤原猛さんが防火チームを代表して、『消防行政の発展に寄与し、功績顕著である』と、金沢区消防署長より感謝状を頂きました。日頃の活動が行政から大きく評価されたもので、大変良かったと喜んでます。

2018年度の防災VGの現況は、

1. 今年で8年2ヶ月となった。メンバーは88名(昨年比▲4名)、内女性は38名で43%。
2. 5つのスキルチームの活動も活発化し登録者は延べ78名。
3. 「災害時要援護者数」は228名、昨年比+39名と大幅に増加となった。
4. 主な活動は「災害時要援護者安否確認」と「スキルチーム」の活動の2本立て。
5. 7月に2年目の非常食体験を兼ねた「懇親会」を行った。参加メンバーから大変好評だったが残念ながら参加者は28名と少ない感じ。
6. 本年度も防災会議で 防災・減災活動について議論し、計画・実行した。
 - ①5年前作成の「防災あんしんカード」を、「防災グッズを備えよう」に更新した。また、「発災時の避難行動詳細」を新たに作成し全戸配布した。プロが作成したものと比較して全く遜色がありませんとの高い評価を頂いた。
 - ②秋の自治会防災訓練時の安否確認方法の策定及び災害本部設置・設営と、年末の地域防災拠点訓練に運営委員として11名派遣し、有意義な活動が出来た。
 - ③防災バス見学会は24名が参加。セレモホールからバスを提供頂き安価で実施出来た。「そなえリア東京」では防災・減災活動の実践研修を体験学習した。
7. 最後に「課題」として、来期を踏まえて「役員・リーダー」のなり手難の問題がある。是非皆様のご協力・前向きな検討をお願いします。
8. その他の成果等は30年度の活動と31年度(2019年度)の活動計画報告書で報告。

以上簡単ですがこれをもちまして開会の挨拶とさせていただきます。

栗原自治会長 挨拶

日頃より関ヶ谷自治会の防災訓練と地域拠点防災訓練にご協力頂き、感謝申し上げます。昨年、スタンドパイプ訓練や炊き出し訓練、東京都の防災センター見学などに参加して、非常に楽しく、防災体験をさせて頂きました。防災VGの会員の多さに改めて驚かされました。今後も役員会と共に関ヶ谷の為にますますご活躍頂くことをお願ひして、挨拶とします。



総会風景



北海道胆振東部地震

関ヶ谷防災VG、金沢区消防署長から表彰される!

1月5日、金沢区消防出初式が行われ、金沢区消防署長から「一般消防功労者」として関ヶ谷自治会防災VGが表彰されました。防火チームリーダーの区原さんと自治会長の2名が出席しました。この表彰は長年の防災訓練と区内で突出したスタンドパイプ訓練が評価されたものです。今後ますますVGの活躍が期待されます。



安否確認はタオルで知らせよう



災害対策を【行政主導】から「住民主体」に転換を、と大きく変化!

「中央防災会議」提言より

昨年12月26日、国の中央防災会議の作業部会は7月の西日本豪雨を踏まえて、防災対策を「行政主導」から「住民主体」に変える必要があるとの提言をまとめました。

従来の災害対策に大きな転換を求める内容です。理由はこのところの気象現象が激甚化し、行政主導の対策には限界があるとした上で、住民に「自らの命は自らが守る」との意識を持ってもらう一方、国や地方公共団体に対しては、「住民が適切な避難行動をとれるように全力で支援する」ことを求めている、と言うニュースが流れました。ちょっと驚きです!行政側が手を挙げたともとれます。

今まで言われてきた、防災の役割は、自助・共助・公助が大きく変わることになり、ますます「自助」「共助」の役割が大きくなり、また求められているという事です。

まさに防災VGの活動そのものであり、改めて活動の重要性をメンバー皆で考えてみたいと思います。



平成30年「要援護者」アンケート報告 ～民生委員・関ヶ谷自治会長～

昨年秋のアンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートがまとまりましたので報告いたします。

1. アンケートの配布戸数・回収戸数および回収率

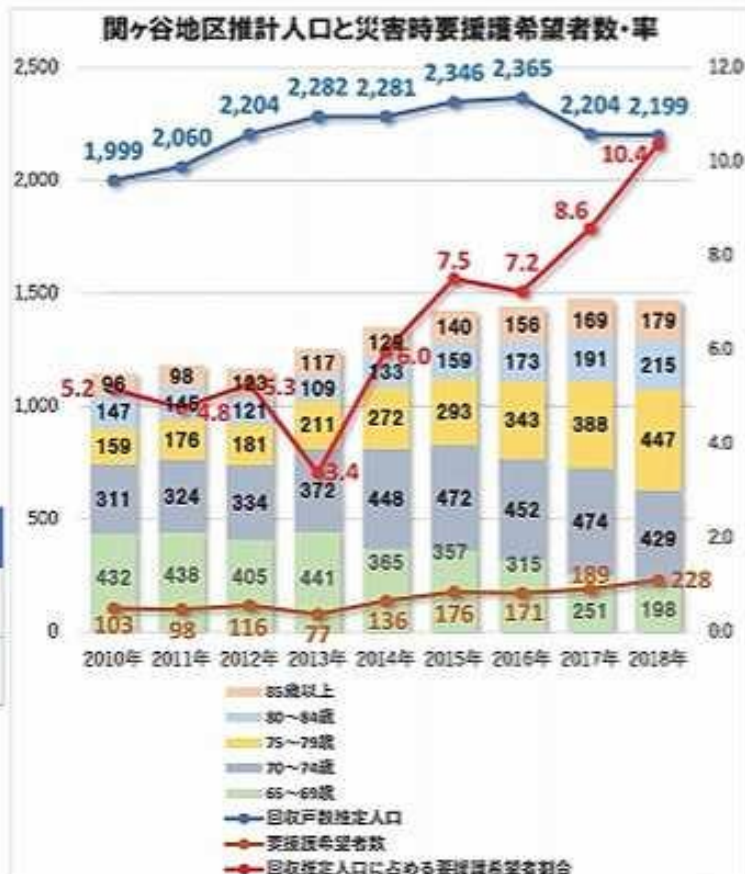
年度	配布戸数	回収戸数	回収率
平成30年	1121戸	952戸	85%
平成29年	1132戸	950戸	84%

2. 災害時援護を希望された方は228名
 災害時援護を希望された方は228名で、昨年の189名から39名と大幅に増加しました。
 昨年の増加は18名でしたので、関ヶ谷地域の高齢化が急速に進んでいることがわかります。
3. 定期的に訪問を希望された方は40名で、昨年から4名減りました。
4. 年齢別人口は下記のようになっています。

年度	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	合計
平成30年	198名	429名	447名	215名	179名	1468名
平成29年	251名	474名	388名	191名	169名	1473名

5. 【今後の取り組み】

- ①元号が変わる4月前後に民生委員と防災VGの各地区のグループリーダーが家庭訪問をします。
- ②その後速やかに防災VGの要援護者の方々の担当者が複数で家庭訪問をします。何卒よろしくお願いたします。

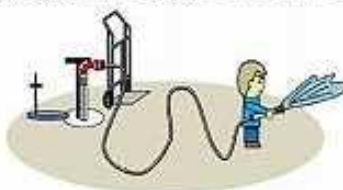


「はなむしろ公園」でスタンドパイプ放水訓練行う！

—防火チームリーダー 藤原 猛—

- 実施日時:平成30年12月8日(土)10時～
- 場所:「はなむしろ公園」

「はなむしろ公園」での放水訓練は、関ヶ谷地区にある7つの公園、最後の実施でした。参加者は事前の「おしらせピラ」(196軒)の効果もあり、周辺住民の方34名、自治会・VG関係者9名、消防署5名、第六消防団4名、計52名と多くの参加でした。引き続き放水訓練を積み重ねる計画です。



「防災グッズを備えよう」で備えの点検を！

自治会作成の「防災グッズを備えよう(2018年12月配布)」は、自身と家族の被害を少しでも減らし、災害時の生活になるべく困らないようにするための「備え点検表」です。

備えとは、「安全対策+生活品備蓄」を指します。この二つがどれだけ整っているかを事前に確認するための点検項目となっています。定期的に点検し、後悔しない備えをしましょう。

「自分の身は自分で守る」これが
 減災の合言葉



どんど焼き会場にてスタンドパイプ放水デモを実施！

平成31年1月12日(土)どんど焼きのやぐら点火前に、消防団が火災防止目的で実施している、周辺の木々や枯れ葉への放水を、スタンドパイプを使って行いました。

残念ながらわずかな参加者で終わりましたが若い人(中学生)の参加があったことは喜ばしいことです。

当日は曇り空、小降りの雨で大変寒い中を、ご指導頂いた消防団の皆様・参加頂いた皆様ありがとうございました。

今年も3～4回のスタンドパイプを使った訓練を計画しています。万が一の災害に備えるため、是非、放水訓練に参加ください。
 防火チーム 石橋利和

